坂戸市地域防災計画(素案)に対する市民コメントについて

1 募集期間 令和6年12月6日(金)から令和7年1月6日(月)まで

2 集計表

応募総数1人 男1人 (意見数 2件)			
提出方法の内訳		年代別内訳	
メール	1人	80代	1人

3 意見・要望とその対応

番号	ページ	意見等	市の考え・対応等
1	第2編-37	<p>「高速道路管理者は、施設の耐震性及び安全確保を図る。」とある。担当機関は「東日本高速道路株式会社」である。</p> <p>阪神淡路地震の際に高速道路が倒壊したのは記憶に新しい。その時に既に関越自動車道は存在していたので、強度に関して疑念がある。</p> <p>坂戸市を縦断するように関越自動車道が走っているが、その下に家屋が存在する。坂戸市で起こる可能性がある震度6.5の揺れに対しどの程度の強度があるのか素案に無い。</p> <p>また、想定される災害、例えば震災による多重衝突事故で火災が発生した際に消防も出来ない状態でどうなるのか？</p> <p>確かにこの問題は坂戸市の問題ではないかもしれないが、起こった時の結果は坂戸市に多大な影響がある。</p> <p>これらの疑問に対する回答を付録のような形でも示していただきたい。</p>	<p>高速道路も含めたそれぞれのインフラに係る構造物等に関する強度などの詳細については、それぞれの管理者がその責任のもと適正に災害対応を行うものであるため、本計画に掲載しておりません。</p> <p>一方、ご意見のありましたとおり、事故等による交通の混乱は災害時の応急対策活動に多大な影響を及ぼすため、「震災時の応急対策活動を効率的に行うため、関係各機関は被害状況等を積極的に調査把握し、関係機関同士が連絡を密にしている確に対処する。」を本計画に記載します。</p> <p>なお、ご意見について東日本高速道路(株)に確認しましたところ、回答の概要は次のとおりになります。</p> <p>【耐震化について】 関越自動車道における落橋・倒壊防止の耐震対策(橋脚の補強等により、大規模な地震時でも軽微な損傷に留まり、速やかな機能回復が可能となる対策)は完了しているところである。 ※国土交通省のWebサイト「道路における震災対策」を参照。 (リンク:https://www.mlit.go.jp/road/bosai/measures/index1.html#1-1)</p> <p>【多重事故により発生した火災の対応について】 大規模災害の有無にかかわらず、高速道路上での交通事故には警察、消防等の関係機関と連携し、それぞれの分野で必要な対応を行う。」</p>

番号	ページ	意見等	市の考え・対応等
2	第2編－39	<p>「電気事業者は、施設の耐震化及び安全施設の整備を図る。」とあり、担当機関は東京電力パワーグリッド(株)だが、坂戸市を縦断するような形で高圧送電線が通っている。東日本大震災の場合に幾つかの高圧送電鉄塔が破損したような記憶がある。坂戸市を通る高圧送電鉄塔は場所によっては液状化地盤の上に立っている。液状化地盤上にあると、揺れが大きく、また高所の揺れは地盤の何倍にもなり、鉄塔が倒壊しない場合でも高圧電線が切れる可能性が考えられ、極めて危険である。高圧送電鉄塔がどの位の震度まで耐えられるのか、電線が切れた場合の対処法などの点に関しても東京電力パワーグリッド(株)が所有しているデータを付録のような形で添付して頂きたい。</p>	<p>ご意見について、東京電力パワーグリッド(株)川越支社に確認しましたところ、回答の概要は次のとおりになります。</p> <p>なお、東京電力パワーグリッド(株)が所有しているデータの添付については、「社外秘情報のためご提供は差し控えさせていただきます。」とのことです。</p> <p>【送電鉄塔がどの位の震度に耐えられるのか】 送電鉄塔は、法律(電気事業法)に基づく省令や解釈(電気設備に関する技術基準)に準じて設計しているが、その中に鉄塔の耐震基準は設けられていない。 ただし、過去の大震災を契機に個別の耐震評価を実施し、補強等の対策が必要な鉄塔については順次対策工事を実施しているところである。(震度ではなく、その地点における地震動の個別検討結果による) また、鉄塔は、地震よりもむしろ風圧による倒壊の方が懸念されるが、基本的に地震に対しては、解釈に「風圧荷重を考慮して施設すれば安全性が確保できる」とされていることから風圧荷重に包含して設計している。 なお、東日本大震災で倒壊した鉄塔も、地震動による直接的な倒壊でないといわれている。</p> <p>【液状化地盤上にある鉄塔に繋がる電線が切れた場合について】 基本的には、電線が破断する前に鉄塔倒壊が発生している。(至近では、2019年の台風に伴う千葉県での鉄塔倒壊があったが、電線破断には至っていない。) ただし、竜巻等により舞い上がった飛来物による物理的な損傷等に起因する電線破断の懸念はあるので、その場合には、破断した電線や倒壊した鉄塔には近づかないようにしてほしい。東京電力パワーグリッド(株)から作業員を派遣し、迅速に対応する。 なお、2019年の台風に起因した鉄塔倒壊により設計基準が見直されており、より強い鉄塔を建設することとしている。また、既存設備については個別評価の上、補強工事を実施している。」</p>